

令和3年度 両生・爬虫・哺乳類調査報告書

両生・爬虫・哺乳類担当 松尾 公則

1. 相川湿地の整備や野外観察会

例年通り湿地の整備、産卵数の確認、野外実習を実施した。

1- (1) 相川湿地整備

今年度は、3つの団体をお願いして**湿地整備**を行った。

実施日：12月12日（土） 8:30～15:00

参加者：総勢24名・・・松尾（担当者1名）

長崎大学教育学部3年生理科専攻（大庭准教授以下8名）

長崎総合科学大学（持田准教授以下9名）

時津幼稚園先生方（別所園長先生以下5名）

相川自治会（8名）・・・自治会の方は前日だけでなく毎日のように作業を実施した。



相川自治会による畦の修復作業

12月11日（金）
相川自治会による湿地整備のようす
イノシシにより破壊されたあぜ道の修復中の写真



湿地の溝掘り中

12月12日（土）10:00～15:00
湿地4枚の水路掘りを実施した。
参加者は、上記の3団体23名。



完成した溝



作業後の記念撮影

1- (2) 産卵されたニホンアカガエル

溝掘り作業後の人工の小さな池には、例年通りにニホンアカガエルが産卵した。最初の産卵は、2021年12月30日のことである。その後も、少しずつ産卵は見られたが、例年に比べて非常に少ないものだった。2月末現在、約200個ぐらいであり、全盛期の5分の1以下になってしまった。しかし、野外観察会は3回実施することができた。卵塊の減少が続いているので、個体数増加に向けての新たな取り組みも実施することにした。



今年度最初の卵塊
(2021年12月30日撮影)



ハート池に産卵された卵塊
(2022年1月24日撮影)

1- (3) 野外実習

今年度は下記の3団体で野外実習を実施した。

①1月29日(土) **長崎大学教育学部3年中理**

Zoomでの説明後、大庭先生が卵塊のようすをユウチューブで学生に配信し、後日、各自で行くようにした。

②2月4日(金) **時津幼稚園年長組** 引率者: 6名 園児 32名

松尾と相川自治会10名で対応した。

10:30からの約1時間、園児たちは喜んで卵塊に触れ、湿地の中を走り回っていた。



卵塊に触っているようす



観察終了後の記念撮影

③2月11日（金）NPO法人環境保全研究所主催 関係者2名、参加者4家族13名
松尾一人で対応した。

4家族12名は、ニホンアカヤカスミの卵塊と触れ合い楽しく学習
していた。カヤネズミの巣やタゴガエルの鳴き声観察も実施した。



新しい卵塊を触っているようす



産卵された卵塊を見ているようす

1ー（4）. ニホンアカガエル人工増殖の取り組み

相川湿地でのニホンアカガエルの産卵数は年々減少している。特に、今年の産卵数は極端に少なく200卵塊程度であった。この減少の理由は、幼生が育っていないことが大きいと思われる。特に、卵塊からふ化した直後の死亡率が高くなっている。

そのため、一昨年度からニホンアカガエルの幼生飼育を行っている。人工的な容器で幼生を育て、飼育後に成長した幼生または幼体を湿地に放すという取り組みである。

令和2年度は松尾一人で、令和3年度は松尾と時津幼稚園で取り組み、数多くの幼生や幼体を放流してきた。今年度（令和4年度）は、相川自治会の方でも相川湿地にて幼生の飼育を取り組むこととしている。

相川自治会での取り組みについて紹介しておく。

あぜ道の直射日光の当たらない場所で衣装ケースを設置し、古い卵塊を入れ、ふ化後に餌を与えながら飼育予定である。幼生は順次、湿地に放流し、ニホンアカガエルの個体数増加に取り組むつもりである。

下の写真は、ニホンアカガエルの卵塊や幼生飼育のようすである。



2. 相川湿地以外の調査結果

毎月一カ所の地点を決め、歩きまわりながら目撃できる両生類・爬虫類・哺乳類を調査している。

2-1(1) 長崎市栴島町樺島灯台付近（4月）

4月9日：長崎市野母崎町樺島灯台付近（環境省メッシュ4829-6652）

樺島灯台付近に自動撮影カメラ（動画）を設置し哺乳類の調査を実施した。

カメラに写った動物：タヌキ、イノシシ、アナグマ

4月17日：長崎市千々町（環境省メッシュ4929-0751）

爬虫類：アオダイショウ、ニホンマムシ

2-1(2) 長崎市相川湿地（5月）

今年も2月から飼育していたニホンアカガエルの幼体を湿地に放流した。

放流総数は、364個体であった。

8日：幼体15、しっぽあり幼体10（松尾飼育分）

11日：幼体16（松尾飼育分）、幼体25（時津幼稚園分）

18日：幼体118（松尾飼育分）

26日・・・最後の放流

幼体70、幼生40（松尾飼育分）、幼体40、幼生30（時津幼稚園飼育分）

相川湿地でこの1年間で確認した両爬哺は次の通りである。

両生類

カスミサンショウウオ、アカハライモリ、ツチガエル、ニホンアカガエル
タゴガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル

爬虫類

ニホントカゲ、シマヘビ、ヤマカガシ

哺乳類

イノシシ、コウベモグラ、テン、イタチ属の一種

2-1(3) 長崎市相川湿地（6月）：ヘイケボタル調査

6月20-22日（20:00~20:50）

ヘイケボタル：昨年より少し少ない（100頭前後）

ゲンジボタル：飛んでいる姿は目撃できなかった。

6月6日：長崎市甕岩付近（環境省メッシュ4929-0773）

両生類：ニホンアマガエル

爬虫類：ニホントカゲ、ニホンヤモリ

哺乳類：テン（糞）、イノシシ（あせり跡）

2-(4) 長崎市平山町平山農園付近 (7月)

7月25日：長崎市平山町 (環境省メッシュ4929-7697)

両生類：ニホンアマガエル (幼生)、ヌマガエル (幼生)

爬虫類：ニホントカゲ

哺乳類：テン (糞)、イタチ属の一種 (糞)、イノシシ (あせり跡)



ニホンアマガエル幼生の生息場所



左図の中のニホンアマガエルの幼生

2-(5) 長崎市深堀町 (8月)

8月5・10・25日：長崎市深堀町の深堀小学校や菩提寺周辺を調査した。

調査地点の環境省メッシュは4929-0616である。

両生類：ツチガエル

爬虫類：ニホンカナヘビ (幼体)、ニホンヤモリ (卵塊・成体)、シマヘビ黒化型

哺乳類：イノシシ (掘り起こし)、テン (糞)、コウベモグラ (塚)

2-(6) 長崎市野島・黒島 (9月)

9月4日、長崎市のチャーター船で蚊焼沖に浮かぶ野島と黒島を調査した。

野島 (環境省メッシュ4829-7674)

爬虫類：ヤクヤモリ (成体4、卵塊約50個確認)

哺乳類：ネズミ類の一種 (長崎市職員の方が目撃)

黒島 (環境省メッシュ4829-7683)

爬虫類：ヤクヤモリ (卵塊約50個) 確認。成体は目撃できなかった。



ヤクヤモリ成体 (野島)



ヤクヤモリの卵塊 (野島)

2- (7) 長崎市大山町・鹿尾町付近の鹿尾ダム周辺 (10月)

10月30日：長崎市大山町鹿尾町（環境省メッシュ4929-0639・0638）

両生類：ウシガエル

爬虫類：ミシシippアカミミガメ

哺乳類：テン、イタチ属の一種、コウベモグラ、イノシシ

2- (8) 長崎市江川町落矢ダム・高浜町高浜ダム (11月)

11月21日

江川町落矢ダム周辺（環境省メッシュ4929-0617）

爬虫類：ニホンヤモリ

哺乳類：イノシシ、イタチ属の一種、テン、コウベモグラ

高浜町高浜ダム（環境省メッシュ4829-7613）

爬虫類：ニホンヤモリ

哺乳類：テン、イタチ属の一種、イノシシ

その他：ヤンバルトサカヤスデ（国内外来種：不快害虫）



ヤンバルトサカヤスデ



大量のヤンバルトサカヤスデの死体

2- (9) 相川湿地の整備 (12月)

12月12日、多くのボランティアに集まっていただき湿地の整備を行った。

詳細は1の相川湿地の整備の項目に記載している。

2- (10) 相川湿地を中心に両生類の卵塊調査 (1月)

1月7・11・24日：相川湿地（環境省メッシュ4929-1652）

ニホンアカガエルの卵塊約130個を確認した。

1月15日：永田町永田湿地（環境省メッシュ4929-1597）

ニホンアカガエルの卵塊136個を確認した。産卵場所の水が減少し危険な状態であったため、長崎市の方に連絡した。1月20日に市の方で安全な場所へ卵の移動を実施して頂いた。

2-(11) 相川湿地野外実習(2月)

野外実習を3団体で実施した。

詳細は1の相川湿地の野外観察会に記載している。

2-(12) (3月)

2月中から3月にかけて、長崎市野母崎の水仙の里や青潮学園を中心に、ニホンアカガエル、ニホンヒキガエル、カスミサンショウウオの卵塊調査を実施した。

3. まとめ

相川湿地での整備、卵塊数調査、野外観察会は例年通りに実施できた。湿地整備を本格的に始めたのは2014年からなので、8回連続して実施したことになる。その間、多くのボランティアの方の協力でニホンアカガエルが産卵できる湿地の状態を維持できた。ただ、我々の仕事は一日だけのことである。地元の相川自治会の日々の活動が何とか維持できている原動力であることは間違いないので、今後も湿地維持のために協力して動いて行きたいと思う。野外観察会は2006年の長崎北高校在職中からスタートしているので17回目ということになる。この間、湿地の重要性や生態系を守ることの大切さを学んだ児童、生徒、一般の方々は多数であり、成果は十分にあると思っている。

ただ、時間の経過とともに我々の努力だけで湿地を維持することは難しくなっていることも現実である。多量の土砂の流入で乾燥化は進んでいるし、イノシシによる湿地環境の破壊は目を覆うばかりである。また、産卵環境を維持する努力にもかかわらず、ニホンアカガエルの産卵数は年々減少し続けている。この減少を何とか止めたいと思い、人工飼育を試み、飼育後に大きな幼生や変態した幼体を放流する試みを実施している。今年度は、松尾だけでなく、時津幼稚園、地元自治会の3カ所で行っていることで大きな成果になると期待している。

毎月、市内各地の調査を実施しているが、目撃できる両生爬虫類は全体的に減少している。一番の原因は、両生類や爬虫類が生き続けるための水場の不足である。大地に降った雨は、すぐに、整備された河川に集まり、海へと流されていく。人間を守るためには必要な整備であり大切なことと思うが、あまり影響のない場所は、一年中水があるような環境を残し、場合によっては作りたいと思うことが多い。

長崎市が、そこに住む人間だけでなく、多くの生物たちが生き続けられる町であることを願いたい。